

アジア・キリスト教・多元性

第 18 号

論文

賀川豊彦と自然の諸問題 芦名定道 (1)

聖フランシスコ・デ・ザビエル書簡における僧侶像

—好意的な印象から好戦的な態度へ— アンドレス・メナチェ (13)

研究ノート

維新期におけるキリシタンへの迫害と抵抗—浦上キリシタンの信仰理解と宣教使

の説諭— 狭間芳樹 (29)

書評

役重善洋著『近代日本の植民地主義とジェンタイル・シオニズム

—内村鑑三・矢内原忠雄・中田重治におけるナショナリズムと世界認識—』

..... 岩野祐介 (45)

随想

21世紀は宗教間対話の時代—カール・ラーナーの神学から—

..... 高橋勝幸 (59)

あとがき 芦名定道 (78)

2020年3月

「アジア・キリスト教・多元性」研究会

研究会の活動内容（2019年度）

第180回・研究会

日 時：2019年6月15日（土曜日） 13時～16時
場 所：京都大学（文学部校舎・キリスト教学研究室）
発 表：狭間芳樹、トロヌ・カルラ「キリシタン研究の課題と展望」
名和田東子「キリシタン文学の解釈——キリシタン女性読者の視点から聖女伝を探る——」

第181回・研究会

日 時：2019年7月27日（土曜日） 15時～17時
場 所：京都大学（文学部校舎・キリスト教学研究室）
発 表：芦名定道「教育者としての賀川豊彦」

第182回・研究会

日 時：2019年10月19日（土曜日） 14時～17時
場 所：京都大学（文学部校舎・第3演習室）
発 表：役重善洋「満州基督教開拓村計画の政治的・思想的背景について——賀川豊彦・杉山元治郎・千葉豊治を中心として——」
メナチエ・アンドレス「ザビエルと僧侶との出会い——16世紀後半における初めてのキリスト教と日本宗教との対話とミスコミュニケーション——」

第183回・研究会

日 時：2019年11月30日（土曜日） 14時～16時
場 所：京都大学（文学部校舎・キリスト教学研究室）
発 表：岩野祐介「書評：『近代日本の植民地主義とジェンタイル・シオニズム——内村鑑三・矢内原忠雄・中田重治におけるナショナリズムと世界認識——』」

第184回・研究会

日 時：2019年12月20日（土曜日） 13時～15時
場 所：NCC宗教研究所
発 表：川田玲子「メキシコにおける聖フェリーペ・デ・ヘスス崇拜——その変遷の歴史——」

第185回・研究会

日 時：2020年1月25日（土曜日） 14時～18時
場 所：京都大学（文学部校舎・キリスト教学研究室）
発 表：芦名定道「賀川豊彦と自然の諸問題」
高橋勝幸「21世紀は宗教間対話の時代——カール・ラーナーの神学から——」

第186回・研究会

日 時：2020年3月14日（土曜） 14時～18時
場 所：京都大学（文学部校舎・キリスト教学研究室）
発 表：狭間芳樹「維新时期における東本願寺と排耶僧——松本白華のキリスト教観をめぐって——」

◆『アジア・キリスト教・多元性』第18号をお届けいたします。

本研究雑誌は、「アジア・キリスト教・多元性」研究会の研究活動報告論文集として刊行され、本研究会の前身となる旧「アジア・日本のキリスト教と宗教的多元性」研究会の研究ジャーナルから数えて通算して第18号を迎えました。今回も、執筆者の方々はもちろん、研究会での議論に参加いただいたメンバーの方々、特に、編集担当者に全面的な協力をいただくことによって、無事に刊行することができました。この場をお借りして、心よりお礼を申し上げます。

本研究論文集は創刊号より、電子ジャーナルをめざして刊行されてきましたが、第13号までは、必要部数に限り、冊子体での刊行も行ってきました。しかし、第14号からは、冊子体なしの完全な電子ジャーナルとして、研究会のホームページにおける公開のみということになりました（保存用冊子は別にして）。なお、2008年度からは、京都大学学術情報リポジトリにも、登録されておりますが、その点は変わりありません。

◆2019年度の研究会の活動の詳細については、本号の「研究会の活動内容（2019年度）」あるいは研究会のホームページに記載された通りですが、例年通り、毎月ほぼ1回程度の研究発表会が開催され、活発な討論が行われました。本研究会では、参加メンバーの研究テーマが多岐にわたる一方で、比較的多くのメンバーが共通に関心をもっている研究テーマが存在します。無教会を中心とする明治キリスト教研究、そしてキリシタン研究です。こうした共通の研究テーマについては、これまでも日本宗教学会のパネル企画などを利用して共同研究を行ってきましたが、研究会内に、小研究会を設置するなどして、より継続的な共同研究ができればと考えています。ご意見をお寄せください。

◆2020年3月14日は、本研究会の総会が開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染への対応として、一部をメール会議に移行し、2020年度の研究会役員の決定については延期することになりました。新役員決定までは、2019年度の研究会役員が役割を継続して担当します。また、2020年度の研究会活動については、毎月の研究会の実施と年度末の研究雑誌の刊行を中心とし、研究会の会場は、引き続きNCC宗教研究所をお借りし、必要に応じて、ほかの会場（京都大学など）を使用する予定です。

◆研究会メンバーのこの1年の動向をご報告いたします。洪伊杓さんが、論文「海老名弾正の神道理解と社会思想形成」で課程博士の学位を取得され、4月より、山梨英和大学に勤務されることになりました。この論文は、本研究会での研究活動が大きな実を結んだものであり、研究会としても嬉しいニュースです。また、やはりこの4月より、三野和恵さんは、京都大学大学院教育研究科（助教）に就任され、山本美紀さんは、青山学院大学教育学研究科（教授）に所属が変更されました。新しい場での活躍をお祈りいたします。なお、この18号には、研究会メンバーの著書についての書評が掲載されていますが、研究会メンバーの研究成果についても、引き続き取り上げてゆきたいと考えています。情報をお寄せください。

◆2020年4月より新年度の研究会が始まりますが、この第18号の合評会は5月以降に行うことになると思います。いくつかの論文を取りあげ議論を行う予定ですが、研究会メンバーのみなさまには、具体的な日時や内容について後日ご案内いたします。

◆今後とも、本研究会のために、各方面からのご協力を賜りますよう、よろしく、お願い申し上げます。

2020年3月
研究会・研究活動担当
芦名 定道

ASIA CHRISTIANITY DIVERSITY

XVIII

CONTENTS

Articles

KAGAWA Toyohiko and Problems of Nature ASHINA Sadamichi (01)

The Image of the Bonzos in the Letters of Francisco de Xavier
: From a Positive Impression to a Belligerent Attitude
..... Darío Andrés Menache (13)

Note

The Persecution of *Urakami* Christians by the Meiji Restoration Government
: Christian's Faith as seen in the Admonitions of Government Officials (*Senkyoshi*)
..... HAZAMA Yoshiki (29)

Book review

YAKUSHIGE Yoshihiro, *Colonialism and Gentile Zionism in Modern Japan: Nationalist Ideas
and World Views of Uchimura Kanzo, Yanaihara Tadao and Nakada Juji*
..... IWANO Yusuke (45)

Essay

21st century as the time of Interfaith Dialogue in the Theology of Karl Rahner
..... TAKAHASHI Katsuyuki (59)

Postscript ASHINA Sadamichi (78)

March, 2020

Study Group for Christianity and Diversity in Asia
Kyoto Japan

ISSN 2432-1796